NPO法人加治川ネット21情報紙

水辺のひろば

No.10
2009年 10月 1日発行

上三光の特別栽培米のほ場にて

川のある風景
～とんぼのいる水辺～

映画「三丁目の夕日」は、多くの人の心を温かく包み込みました。こういう温かな気持ちは、どこから沸いてくるのでしょうか。

それは、おそらく、人が恣意を持ってしてもかなわない、自然と人が生み出しているものの中にあるのでしょう。私たちは、長い月日をかけて自然を利用し、多くの文化を創ってきました。川は自然と人が創り出したもっともダイナミックな文化でありアートです。そこに生けるものが集い、命を育んできました。

自然の豊かな場所には匂いがあります。その土地の匂いもします。生物的なことは知らないまでも、そこでの存在が調和のとれたものとしてあるとき、風景は人に温もりを与えてくれます。しかし、そういう美しい風景も少なくなってしまいました。

幸いなことに、下水道の普及や、化学肥料、農薬の低減で、一時いなくなった生物たちが田んぼに甦ってきました。田んぼは先人の造った偉大な文化のひとつですが、生き物がいてこそ成り立つ文化でもあります。

新発田の自然「湯の平温泉」

飯豊山の懐深くにある秘湯。この温泉に行くには以前は新発田市街地より加治川治水ダムを通り、林道を掛留沢駐車場まで車で行き、そこから湯の平山荘まで徒歩で3.4㎞、約1時間の道のり。途中には見事なぶなの原生林があり、北俣川をつり橋で越えるのはスリル満点です。

平成15年に建て替えられた山荘の上流側に混浴の露天風呂、下流に女性専用の露天風呂があります。飯豊山から流れる清流を見ながら、湯に浸かる気分はまさに天下一品です。泉質はナトリウムカルシウム塩化物硫酸塩泉でリュウマチ、痛風、皮膚病に効果があるとのこと。

平成15年に林道で落石があり、それ以降、加治川治水ダムから先は通行止めとなっていましたが、新発田市が落石対策工事を行った結果、今年10月からは徒歩限定ではあるものの治水ダムから先の通行ができるようになり、温泉にもいけるようになりました。新発田の秘湯を味わってはいかがですか。

山荘も新しくなり湯の平への道も復旧

くらしの方言 その4

「ひどい御馳走」

田舎の長男宅に帰省した次男夫婦が夕食におよばれしました。

姑	「良子さん。なっても無えども、まず食で行ってくたせぇ。」
良子（次男嫁）	「ありがとうございます。何もお手伝いもしませんで。」
長男	「いゃ～、今日は**ひんでぇ**ごっつぉだの～。」
良子	「(次男に小声で)ねぇ どうしてひどいの?こんなにおいしそうなのに。」
次男	「たいした御馳走だという意味なのさ。」
良子	「へぇ～っ。じゃあ このトマトも新鮮で**ひんでぇ**トマトですね。」
次男	「う～ん、それは～ 違うかも。」
良子	「???」

「ひんでぇ」とは「ひどい」ということで、残酷、過酷の意味のほかに、「ひんでぇ旨(うま)い」など良い形容でも使います。田舎ではひんでぇ御馳走がよいのです。

寄稿 殿様街道てくてく旅④

5日目は 会津街道から越後街道へ

我々が会津街道と呼んでいる道も、福島県に入ると「越後街道」と呼び名が変わる。今回は、延べ5日目。先回の終点、会津坂下町から会津若松市街地を抜け、滝沢峠、沓掛峠を通り三代に至る「越後街道」約38㎞の行程である。

会津坂下町は新発田の有名人である堀部安兵衛の誕生の地と名乗っている。これは安兵衛の母親が坂下の出身で、ここで安兵衛を生んだとの話に基づいているらしい。それと歌手の春日八郎氏が町内の出身ということで、同氏の記念館がある。

坂下の街並みには古くからの街道としての風格がある。酒屋、米屋、呉服屋等の家の構えや看板はどれも年季が入って懐かしさを感じる。

15分程歩き、町はずれの小さな神社に寄り道。その境内に幹周り8mの大欅が天高くそびえていた。幹の中心は腐って大きな穴となっている。社務所兼公会堂に踊りの練習に来たというおばあちゃん3人に出会ったので、この木の歴史を聞いたが、よくわからないとのことだった。

ここでは夏祭りに「ねぶた」を作って盛大に練り歩くとのこと。その写真を見せてもらうと、青森のねぶたにも引けを取らない立派なねぶたの練り歩く姿が納められていた。

(次号に続く)

《編集後記》

皆既日食が46年ぶりに日本で見られるということで、新幹線、飛行機、連絡船と乗り継ぎ、はるばる観測地の北限である鹿児島県の種子島(たねがしま)に行ってきました。

7月22日の午前9時過ぎ、戦国時代に鉄砲が伝来したという種子島最南端の門倉(かどくら)岬に到着。梅雨明けしたはずの九州は天候不順で曇り空。期待をこめて一心に空を見るものの太陽は厚い雲に隠れたままで、おまけに小雨もパラつき、あぁうらめしや。

待つこと一時間。いよいよ日食開始時刻。徐々に辺りが暗くなり、風が涼しくなり、瞬く間に一帯が闇に包まれました。この間わずか数分余り。再び辺りが明るくなり、「今見た闇は本当のことだったのか」となんだか騙されたような気分。コロナ輝く神秘の黒い太陽を見ることはできませんでしたが、こんな体験ができ、遠い南の地まで来た甲斐があったというもの。

日本で次に皆既日食を見ることができるのは、26年後だそうです。

NPO法人加治川ネット21の紹介

設　立	1996年11月。2003年5月法人化
活動目的	21世紀を生きる子供たちによい環境(自然、伝統、文化)を残し、引き継ぐこと。
主な活動	水と親しむ水辺の大楽校、生き物調査、植物観察、小学校環境学習支援及び発表会開催、川辺や町並み散策、手前みそ作り、シンポジウム開催 等
受賞歴	環境大臣表彰、新潟県環境賞、「日本の水をきれいにする会」会長表彰ほか

発行:NPO法人 加治川ネット21　事務局所在地:新発田市小戸886-1　電話:(0254)31-4111　ホームページアドレス:http://www.inet-shibata.or.jp/~kjn21/

総合学習の支援

加治川ネットでは小学校の総合学習に講師を派遣しています。今回は、その中から2校の様子を紹介します。

家の周辺の排水も調査
加治川小学校

7月13日、加治川小学校での総合学習は「身の回りの水質を調べてみよう」がテーマ。児童が汲んできた自宅付近の水路の水のCODの値の調査や、ペットボトルに石と砂を入れた簡易濾過器で水の汚れが浄化できるのかなどの実験を行いました。

実験の一つ、生活排水での水の汚れの観察では、きれいな水道水1ℓに醤油を目薬一滴ほどの量を入れてCODを測定しました。きれいだった水道水が一気に8以上という汚れた水の数値を示したことで、児童たちは微量の汚れで水質が大きく変わることを知ったようです。

水質はどうかな(加治川小学校)

加治川の魚を知ろう
七葉小学校

7月14日は、七葉小学校4年生の総合学習。児童の数が多いため、テーマは「加治川のいきものについて」と「みんなの周りの水質」のふたつで、講師2名がそれぞれを担当しました。

コンピューター室では、最初にいろいろな生き物を実際に見せた後、「加治川の上流・中流・下流の生き物について」を映像(パワーポイント)で見せながら、生き物の学習。児童たちは、初めて聞く話が多かったようで、興味津々な表情で聞き入っていました。

一方、理科室では水質の学習。水の大切さについての講義のあと、実際に児童たちが家の周りから汲んで来た水のCODの測定し、その数値をマップ上に書き込み、農村部と住宅地域の水の汚れの違いについて学習しました。

河童たちは大はしゃぎ 加治川で水辺の大楽校

加治川で水と親しむ夏の恒例事業として定着している「水辺の大楽校」。今年は8月2日に開催しました。場所は、通称「天然プール」の少し上流です。

最初に水質調査で加治川の水がきれいであることを調べた後、いよいよライフジャケットを使っての「河童体験」。曇りがちの天気で少し水が冷たく感じられたものの、川の流れに身を任せたり、水中生物を探したりと、川遊びを満喫していました。

水辺の大楽校のメニューに欠かせない竹を使った水鉄砲作りや、ストーンアートの化石作りは今年も好評で、より飛距離のでる水鉄砲を作るためにどうすればいいかを学んだり、より化石っぽく見える石の選び方や絵の描き方を教えてもらったりと、陸に上がった河童たちは、それぞれの活動を楽しんでいました。

ライフジャケットを着て魚取り

環境学習発表会のお知らせ

と　き：11月8日(日)
午後1時30分～3時30分
ところ：新発田市生涯学習センター講堂
発表校：新発田市の小学校など7校
同時開催：小学校環境学習パネル展示
(時間は午後0時～4時30分まで)
その他：環境学習パネルは11月10日(火)～15日(日)、イオン・ジャスコ新発田店1階中央ロビーで展示

こんな場所発見 田貝の一本杉

川東地区の田貝(たがい)と二王子神社のかつての参拝道の中間に一本杉があります。

大昔、大国主命(おおくにぬしのみこと)が出雲の国から古志国(こしのくに)に来たときに、諏訪峠を越え、小戸の渡しから田貝・虎丸地方に入り、二王子山から国見をし、二王子神社に降りてきました。そのとき、この木で休んだといわれています。

一本杉は昔、周囲が二丈四尺(7.2 m)以上もある大木でしたが、大正9年の大風で倒れ、伐採されたといわれています。ただし、伐採された木は、樹齢が千年以上であったと見られており、大国主命の時代はそれより前のため、伐採された杉はあるいは二代目で、現在のものが三代目なのかもしれません。明治の中ごろまでは、このあたりには二王子登山者のための茶屋もあったそうです。

参考文献：大沼倹爾編「しばたの伝説」

団体紹介 Vol.10

紫雲寺地区の松林を守りたい
並松アートやすらぎイベント実行委員会

紫雲寺の下中沢から真中地区の通称「並松通り」に面した松林は、江戸時代から残っている自然の赤松林です。私たちはボランティアで下草刈り・間伐・松葉かきなどの保全作業や、散策路の整備を行っています。

先人達が大事にしてきた美しい松林にもっと関心を持ってもらいたいと、毎年秋には、この地域で「並松アートやすらぎイベント」を実施しています。

「最も身近にある地域の宝」をみんなで守る意識が根付けるよう、これからも活動を続けていきたいと思います。

【お問い合わせ先】
同会　園部（TEL 0254-41-2011）

城下町しばた歴史ウオーク 当会提案の「会津街道てくてく旅」コースも好評

9月13日、新発田市などが主催する歴史ウオークが開催され、当会が提案した「会津街道てくてく旅」30㎞コースに、健脚20人が参加しました。

出発地点の阿賀町「きつねの嫁入り屋敷」まではバスで移動し、午前8時、当会の「てくてく」サポーター会員も加わり、「旅」の始まりです。目指すは昔、殿様や吉田松陰も通った諏訪峠、そして終着地点の新発田山内番所跡。

当日は雨が降ったり止んだりという空模様でしたが、山歩きに慣れている人が多かったせいか、順調なペースで「旅」が進み、お昼前には全員が昼食場所の新谷集会場に到着。ここでようやく行程の半分。

午後、残りの行程を歩き始めましたが、その頃から雨が降り始め、新発田市に入る少し手前で土砂降りとなり、参加者と協議の結果、やむなく「旅」を終了し、参加者は市が用意したバスに乗り込みました。

完歩はできなかったものの、所々に昔の石畳が残る道や、完全な形で残る一対の一里塚など、歴史を感じるコースに参加者も満足していたようです。

歴史を感じながら山道も軽い足取り

宝物み～つけた 蒸気ぱん

お祭りの屋台に欠かせないもの、それは「蒸気ぱん」。「えっ、それって何」と思っていませんか。今は「ぽっぽ焼き」の名前が一般的ですが、元の呼び名は「蒸気ぱん」で、新発田が発祥の地なのです。

蒸気ぱんは、大正年間に新発田に住む清水さんという方が開業し、店は船の着く神明神社の辺り、昭和の初め頃の値段は、一本一銭だったそうです。

新発田市を中心としたお祭りになると大八車に道具や材料を積んで出かけ、着いたら上にテントを張ってそのまま屋台に。その後、リヤカーや車と移動手段も変わり、「蒸気ぱん」も下越地方を中心に広がっていったようです。

そう思って観察してみると、材料は小麦粉、黒糖といったシンプルなもので、焼き上げる燃料は今では貴重な炭。使用する道具も「ぱん」を入れるへぎや材料を移す柄杓(ひしゃく)など、若い人たちにはあまりなじみのないものばかり。

しかし、その味や製法は百年近くも変わらず、祭りになると蒸気ぱん屋の前はいつも、焼きあがりを待つ人たちの列ができています。こんな新発田の宝物、知っていましたか。

(参考文献：「昔のしばたの暮らし」)

夜店の定番蒸気ぱんは、その懐かしい味が人気

環境豆知識 ハイブリットカー

ハイブリットとは、従来のガソリンエンジンの他に電気モーターを搭載し、異なる動力の組み合わせで走る車のことです。

従来の電気自動車は、エネルギー効率の良さと排気ガスを出さないことで地球温暖化や低公害対策に効果はありましたが、蓄電技術が開発途上で航続距離が短いこととコスト高で難点があり、普及はしませんでした。

そこでガソリンエンジンで発電した電気をバッテリーに充電し電気モーターを回す方式の「ハイブリットカー」が開発され、低燃費車として普及し始めました。

最近は、家庭用のコンセントからバッテリーに充電する「プラグイン・ハイブリットカー」も登場していますが、これは深夜電力を利用することなどで更に経済的に走ることが出来る車です。

ガソリンの高騰と温暖化防止策、そしてエコカー減税でハイブリットカーは更に普及が促進されることでしょう。

NPO法人 加治川ネット21団体会員紹介（順不同）
㈱日図、曽根建㈱、㈲みずほ園芸、片山食品㈱、㈱アートグラフィック新潟、大進電業㈱、大豊電気㈱、㈲ひかり電工、ミトモ電設㈱、ベック㈲、北越緑化㈱、新発田ガス㈱、菊水酒造㈱、NPO法人 赤とんぼ、㈱馬場工務店、㈱静岡グリーンサービス、聖光園㈲、はまだ歯科医院、エヌシーイー㈱、㈱花安 新発田斎場、新潟グリーンテック㈱、㈲高橋基礎、若月建設㈱、昭栄印刷㈱